

【足立区在宅療養推進協議会】概要

会 議 名	令和８年度 第１回 足立区在宅療養推進協議会
事 務 局	福祉部 医療介護連携課
開催年月日	令和８年４月２７日（月）
開催時間	午後７時～午後９時
開催場所	すこやかプラザ あだち 大研修室
出席者	別紙（委員名簿）のとおり
欠席者	別紙（委員名簿）のとおり
会議次第	別紙のとおり
資 料	別紙のとおり
そ の 他	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 足立区在宅療養推進協議会議資料

令和8年度第1回 足立区在宅療養推進協議会 委員名簿

【出席者】

氏 名	フリガナ	選出団体名
有野 亨	アリノ トオル	足立区医師会
山下 俊樹	ヤマシタ トシキ	足立区医師会
井上 泰介	イノウエ タイスケ	足立区医師会
佐藤 浩史	サトウ ヒロフミ	公営社団法人東京都足立区歯科医師会
花田 豊實	ハナダ トヨミ	公営社団法人東京都足立区歯科医師会
浅見 恭史	アサミ ヤスシ	一般社団法人足立区薬剤師会
鶴沢 隆	ウザワ リュウ	足立区介護サービス事業者連絡協議会
白井 良一	シライ ヨシカズ	足立区介護サービス事業者連絡協議会
内山 ちあき	ウチヤマ チアキ	足立区介護サービス事業者連絡協議会
塩谷 総吾	シオタニ ソウゴ	足立区介護サービス事業者連絡協議会
羽田 雅代	ハダ マサヨ	足立区介護サービス事業者連絡協議会
和田 庸右	ワダ ヨウスケ	東京都柔道整復師会足立支部
大舘 哲詩	オオダテ サトシ	あだちPOSネットワーク
永田 健一	ナガタ ケンイチ	足立区多機能サービス連絡会
結城 宣博	ユウキ ノブヒロ	足立区社会福祉協議会
伊東 貴志	イトウ タカシ	区職員（福祉部長）
半貫 陽子	ハンヌキ ヨウコ	区職員（高齢者施策推進室長）
小峯 直樹	コミネ ナオキ	区職員（介護保険課長）
網野 孔介	アミノ コウスケ	区職員（衛生管理課長）

【欠席者】

橋爪 敏彦	ハシヅメ トシヒコ	足立区医師会
小浦 梓	コウラ アズサ	東京都栄養士会足立支部
馬場 優子	ババ ユウコ	区職員（衛生部長）

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター それでは定刻になりましたので、ただいまから令和8年度第1回足立区在宅療養推進協議会を開催させていただきます。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日司会を務めます医療介護連携課の渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでははじめに、事務連絡をさせていただきます。この会議は足立区在宅療養推進協議会設置要綱第9条に基づき公開することとなっております。記録の関係上、録音及び撮影をさせていただきます。会議の結果につきましてはホームページに公開いたしますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。また、お手元に次第・説明資料1から9を配布しております。会議の途中で資料の不備・不足等お気づきになりましたら、お手数ですが事務局までお声がけください。それでは、次第1、開会挨拶、足立区在宅療養推進協議会有野会長よりご挨拶をお願いいたします。

○有野会長 皆さまこんばんは。昨年1年間に4回、協議会がありましたが、様々な形になり良かったなと思っています。令和8年度も始まり、メンバーも何人か変わっていますが、引き続き同じ目標に向かってより良い形の協議会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 有野会長、ありがとうございました。続きまして次第2、新任委員の紹介です。今年度から新任の委員となります、高齢者はつらつ支援課、黒岩課長よりご挨拶をお願いいたします。

○黒岩高齢者はつらつ支援課長 高齢者はつらつ支援課長の黒岩と申します。よろしくお願いいたします。議題も多いと思いますので、手短にご挨拶させていただきます。4月から高齢者はつらつ支援課長になりました。先日は、認知症研修委員会の方で、山下委員に色々ご意見いただきましてありがとうございました。色々な場で医師会の先生方はもちろん、介護の事業者の方と接する機会が多いんだという風に、この4月から感じております。3月まで私は区民の声相談課で課長をしていましたが、その時から色々な方の意見を聞きながら事業を進めていくことの大切さ、分かっているつもりでございます。引き続き協力しながら、事業を進めさせていただきたいと考えております。よ

ろしくお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、事務局の医療介護連携課から新任の高橋課長よりご挨拶を申し上げます。

○高橋医療連携課長 4月から医療介護連携課長になりました高橋です。どうぞよろしくお願いいたします。この会議が区民の方が最後まで住み慣れた地域で自分らしく過ごすことができるよう、その一序となれるように作られたものと聞いておりますので、私ども事務局としましても、それが推進できるように勤めてまいります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。それでは以降の進行を有野会長と交代します。有野会長、よろしくお願いいたします。

○有野会長 それでは議題の方を進行したいと思っております。お手元にある資料をご覧ください。まず始めに次第3、協議事項です。1番、在宅療養普及啓発紙の発行及びプロジェクトチームのメンバーの選出について、事務局からご説明をお願いいたします。

○原医療介護連携推進係員 私からは、協議事項の1つ目、在宅療養普及啓発紙の発行及びPTメンバーの選出についてということで、簡単にご説明をさせていただきます。右上に資料1の1と書かれている1枚目めくっていただいたところにあるA4資料の方をご覧くださいと思います。昨年度、皆様のご協力により啓発紙第1号を無事に発行することができました。引き続き今年度も、第2号発行を考えております。ターゲットですとか紙面・構成・スケジュールといった流れ、資料で言うと1の発行についての部分ですが、こちらは基本的には昨年度と同様で考えております。そこで、本日の協議会では、その後の見開きのページで展開をする特集のテーマを決定する他、プロジェクトチームのご参加についてもご検討をいただきたいと思いますと考えております。

まずこちら資料の2番、特集ページのテーマに関してですが、一旦事務局の方で、事前に検討した3つの案を表記させていただいておりますので、ご説明させていただきます。見開きページに関しては、A3の3つ折りにした資料の方に、第1号のものを写しで添付させていただいております。こちらの部分に、こういった特集を置くかということで、3つ案を出させていただ

きました。まず、第1号の紙面では、高齢者の困りごとや希望する生活に対して、どのような支援体制が取れるか、たくさんの専門職が関わっていることをご案内していましたが、第2号でより詳細に掘り下げる事例紹介というのをテーマに出したらどうかというのが、こちらの案1、レシピの事例を掘り下げることになっております。全ての事例をより掘り下げて見開きで紹介することは難しいので、事例を絞らせていただいてより詳しい紹介をする。案1の場合、どの事例を取り上げるか、紹介できなかった事例を今後第3号で継続して紹介していくのというところを含めて、この後決定しますプロジェクトチームで検討していきたいと考えております。次に、第2案です。こちらは資料1の2で行っているような、プロフェッショナル紹介という形をより発展させて、協議会としての連携の体制や、啓発講座について紹介をするというのがこちらの第2案です。第1号の時点で、皆様にインタビューのご協力いただきまして、ホームページに掲載もしておりますので、第2号では、インタビューというよりは、啓発講座とか、実際の活動の写真をを中心に、ビジュアルでお示しできるような形を考えたいと思っております。第2案を取り扱う場合には、プロジェクトチームの皆様には、主に在宅療養推進協議会や、啓発講座などをどのように分かりやすく紹介したら良いか、どういった写真があれば良いかなど、紙面構成の部分や説明のところでご協力をいただくような形になるかと考えております。最後に、第3案ですが、こちらは前回紹介しなかった事例、ここには看取りと書いていますが、第1号と全く違うテーマをメインのテーマにと考えました。看取りと書かせていただいたのは、昨年度の2月に行わせていただきました、区民向けの啓発講座の際に、実際の家族が在宅の中で直面した課題や、葛藤、気持ちの変化というような、具体的エピソードが、講座に参加された区民の方にとってとても分かりやすく、考えるきっかけにもなったということで、大変好評であり、こちらを特集として改めて見開きで展開してはどうかというようなことで、提案をさせていただいております。ただ、区民講座の時のように、実際の事例を紹介するのはかなり難しいと思っておりますので、第3案の場合は、プロジェクトチームの皆さんと実例を元に、ある程度フィクションを交えつつエピソードを構成し、その中でご相

談をさせていただくというような流れになると考えております。ちなみに、こちらの第3案の看取り・意思決定という部分に関しては、もし第3案以外になった場合であっても、1の(2)の紙面構成4面のところにも書かせていただきましたが、在宅療養に関するトピックスであるとかそういったものを見開きではなく片面で表示する部分で、取り上げたいと考えています。以上、事務局では、3案をご提案させていただいておりますので、こちらの3案の中からどれか、又は、全く別の特集テーマはどうかというようなご意見をいただければと考えております。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター それでは、ただいまご説明させていただきました、今年度の啓発紙のテーマについて、各団体の皆様からご意見をいただきたいと存じます。5分程度お時間を設けさせていただきますので、団体ごとにお話いただくか、お近くの席の方とお話いただきまして、団体ごとのご意見をいただきたいと思います。

(5分ペアワーク)

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター それではお時間となりましたので、各団体様からお伺いさせていただきます。名簿の順でお伺いいたしますので、ご意見をお願いしたいと思います。まず、医師会様の方からお伺いいたします。

○井上委員 医師会としてはですね、前回作成させてもらったものに私も参加させていただいて、初めてでしたので、どういったものにするのか色々意見はありましたが、多職種で作るという啓発紙になりますので、様々な職種の方が関わっているということを、図式でかなり分かりやすくまとめてもらったかと思えます。前回のものがどのように評価されてるかにもよりますけれども、次回のもはもう少し掘り下げたものでもいいのかなという意見もあります。かなり写真を用いていましたので、もう少し文章で情報を折り込んでもいいのではないかなと。例えば最後の方にコラムみたいな文章を載せてみるとかも1つの案かなという風に思います。また、ターゲットを誰にするのかにもよります。誰が読むのかということ、こちらはまだ把握してないところがあると思うので、置く場所にもよりますが、若い方も読むかもしれないし、高齢者の方も読むかもしれないし、高齢者の人は意外とそういう情報共有を自らしていくので、も

う少し若い世代に絞って、情報も絞った方がいいのかもしれないなという風にも思います。9月頃に区民啓発講座があると思いますので、その際に、ぜひ区民の方に、こういったものを知っていますかというようなアンケートだとか、どういうものが知りたいのかということ、直接意見を吸い上げておくといいかなという風に思います。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、歯科医師会様よろしいでしょうか。

○佐藤委員 歯科医師会では、案1がいいのかなという風に思いました。先ほどもご意見ありましたように、目的と対象というところによると思うのですが、やはり在宅療養をある程度知っている方ではなく、在宅療養って何だろうという方を対象にしていると思いますので、その人たちがこの第1号を皆さん見ているかと言うと、必ずしも見てないというところもあると思うので、そこから掘り下げてみたり、あと実際区民の人がどういうことに困っていて、そのためにはどういう職種の方が、どう関係しているのかが分かると、じゃあこの職種の人に相談してみればいいのかというところに繋がると思います。具体的な例みたいなところに関わる職種っていう方々を、掘り下げてもらうのがいいのかなと思いました。この後案2がいいっていう方もいるかもしれないですが、在宅療養推進協議会の活動をして、それをアピールしたい気持ちも分かりますけども、区民の人にとっては、こうやって集まって、大変だっていうところをアピールしても、あまり興味がないのかなと思うので、それよりは、自分の明日の暮らしに通ずるような内容の方が、啓発的にはいいのかなという風に考えました。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、薬剤師会様お願いいたします。

○浅見委員 薬剤師会は、私1人ですので、隣の席のPOSさんと多機能サービスさんと共に相談をさせていただいて、私もそうだなというところで決めた部分が、案3の看取りかなというところでした。実際に私も、ここ最近看取りとかそういう方の対応をすることが多かったんで、少なからずそういうニーズが増えているなといったところと、区民の方々にどんなものであれば見ていただけるかを考えた時に、看取りは、

最近比較的良好にしたり、テレビでも見たりして知るきっかけもあったり、実際に自分の問題になったりした時、やはり興味が湧く部分があるのかなというところは感じました。あとは、このターゲットを誰にするのかということも重要で、ご家族にするのか、ご本人なのかということも、今後決めて行かなければいけない部分かと思います。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、介護サービス事業者連絡協議会様お願いします。

○鶴沢副会長 対象をあくまでここに書いてある50代から80代、うっすらと介護に関わっている、がっつりと関わっている、何かしら興味のある方と思うと、この案でいけば1と3のミックスみたいな感じなのかなと。看取りや意思決定など、コアなあるいは最新の情報を一般論としてお伝えするってことも非常に大事ですけども、なかなか自分ごととして入りづらいと思うと、ある程度介護に携わっているということであれば、やはり事例を用いた切り口の方が、より身近に感じられて情報が入りやすいのではないかなという話をしていました。ただ皆さんのご発言にでているように、ターゲットをもし違った角度からということ考えた時に、特集ページとしてはこれで、紙面がまだ少しありますから、今まで介護医療、在宅療養というところに馴染みがなかった方に対しても何かキャッチーな、図なのか写真なのか分かりませんが、手に取ってみたいくなるような紙面が作れると良いかと思います。どうしても介護、医療は、死を連想させたり、なんとなく触れづらいものみたいな印象がまだ一般的にあるのだとしたら、いやそうじゃないよと当たり前なんだというようなオーラが紙面から出ているようなものであれば気軽に手を取っていただけるのではないかなと、そういう紙面作りもいいのかなと思いました。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 続きまして、柔道整復師会様お願いいたします。

○和田委員 柔道整復師会も会員がどんどん減ってしまっていて、私1人です。現状で柔道整復師会は介護に関わることがほとんどありません。実際にケアマネの資格を持っている人が関わる程度です。ただ、医師の同意を取って往診に行くことはあるのですが、この冊子に載って、足立区の広報等で柔道整復師って名前

がきちんと載ったのがあまりないので、私個人としてはとてもありがたいと思っています。柔道整復師が何しているのか知らない方も多いので、逆に柔道整復事態を知ってもらう機会になり、とても嬉しいと会員全員喜んでます。今後、在宅で訪問機能訓練など行っていけるようであれば、また介護の協力もできると思うので、そういう形で行くと案1かなと、案3は裏ページに載せていただけたようなことが書いてあったので、柔道整復師だけを押すわけではないですけど、案1がベターかなと思います。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、POS ネットワーク様お願いいたします。

○大館委員 浅見さんに話していただいたのですが、個人的な意見も含めて少し追加します。年に1回の発行で、まだ第1号が出ただけなので、これがシリーズなんだよということを伝える意味はあるだろうなと思います。繋がりがきちんと分かるものがあるのかなということと、前の号に戻れるように作った方がいいのかなと個人的に思います。先ほどお話ありましたが、看取りとかそういうキャッチーなワードの方が閲覧する方の手には届きやすいと思います。ターゲットの話もありましたが、やはりその看取る家族の方も大変なことだと思うのですよね。その大変な先に何か得られるものがあるというところを、どう前向きに伝えていけるか、うまく紙面で出せると少しポジティブな形で在宅療養を伝えられるかなと思っております。あまりリハビリ関係ないんですけど、個人的な意見としては以上です。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、多機能サービス連絡会様からお願いいたします。

○永田委員 先ほど3人で話をしたのですが、結論的には案3、看取りを中心として、もちろん事例を出しても良いと思いますが、案3という結論になった理由は、今回在宅療養サポートということで、お家で病気になっても過ごせるよというところを普及するものですが、本当に最期まで過ごせるのかという疑問はあると思うんですね。前は軽いレベルの状態では色々なサービスがあるねということは伝わったと思うのですが、重くなったらどうなるのかというところが、多くの方が疑問に思うのかなと。お看取りって今は結

構色々な所で言葉が広まっている、ドラマとかでもありますし、どうしても死を連想させるので、マイナスのイメージもなくはないと思うのですが、避けて通れない部分もあると思い、案3が良いと考えました。第1号の裏面のところにも超高齢化社会到来とあるんですけど、例えば地域包括ケアシステムですとか、在宅で最後まで網の目のようにいろんなサービスを組み合わせて過ごしていく、日本はこういう方向性でやっているんだよっていうことも伝えいくべきなのではないかなと思います。その中で、うちの団体の宣伝になってしまうのですが、小規模多能型居宅介護はすごくいいシステムで、最期までお家で過ごすということをコンセプトに作られた施設です。ただ知名度が低いことが課題で。簡単に言うと、いわゆるデイサービスのような通いサービスがあることにプラスして、ショートステイなど人によってはその日泊まることもできるというサービスです。さらに、デイサービスはお休みに、自宅にいる日は訪問としてこちらからお伺いし、お弁当を届けたり、お薬を飲ませに行ったり、通いと訪問と泊りの複合的な施設です。それはまさしくお家で最期まで暮らせるためにできた制度ですということを、広めていきたいなと思っていますし、重い病気の方は、看護小規模という看護という名前のついた小規模多機能もあります。そういったものも将来的に宣伝していただけるとありがたいなと本当にあのお家で最期まで過ごせますよという、そういった施設ですので、よろしくお願いします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。では最後に、社会福祉協議会様お願いいたします。

○結城委員 私は、ベースが案1で、やはり困り事という分かりやすいところでスタートして、なおかつ案2のちょっとミックスですが、各職種についての紹介ということで、写真を入れながら利用者側からの実際に利用した感想なんかも入れていただくと、より「使ってみようかな」と考えていただけることもあると思いますので、私は1と2を少しミックスしたらどうかと思います。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。では、案1と3が多いような結果かと思うのですが、今たくさんのご意見いただきまして、このテーマについても、今後プロジェクトチームの方

でまとめさせていただきたいと考えております。そういった形でよろしいでしょうか。

(賛同)

それでは、プロジェクトチームのメンバーについてですが、井上先生には前回の協議会でまた引き続きお受けいただけるとご発言いただいております。昨年は7名で、非常に良いものを作成していただいておりますので、今年度もメンバーを検討させていただきたいと思います。まずこの協議会の中で、我こそはという方はいらっしゃるのでしょうか。井上先生は継続でよろしいでしょうか。

○井上委員 はい。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 内山委員はいかがでしょう。

○内山委員 時間の関係もあるかと思うので、お受けします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。あと昨年は羽田委員ですね。

○羽田委員 はい。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。あとこの協議会の中で和田先生はいかがでしょう。

○和田委員 柔道整復師の名前を残すためにも是非。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。あと小浦さんは本日ご欠席ですので、また確認させていただきたいと思います。そのほか職種の追加ですとか、今回このプロジェクトチームのメンバーの方のご意見聞きながら、進めさせていただきたいと思います。ありがとうございます。では以上で有野会長に進行をお返しいたします。

○有野会長 はい。ありがとうございます。それでは議題を進行します。次第3協議事項(2)令和7年度在宅医療介護連携推進事業の振り返りについて、事務局から説明お願いいたします。

○河井医療介護連携推進係長 私からは令和7年度の事業の実施結果についてご報告させていただきます。2ページをご覧ください。こちらは研修の参加人数ですが、昨年度比よりプラス131ということになりました。MCSの研修会、入退院支援相談員交流会、こちらを2回から4回に増やしたということと、昨年度から、特養や老健の施設系の方々にも研修のご案内をしているということで人数の方が増加しております。

す。続きまして3ページです。医療介護スキルアップ研修で、第1回目は7月26日にすこやかプラザのオープニング記念ということで筑波大学の柳沢先生にご登壇いただきました。またシンポジウムでは結城部長、橋爪先生、羽田さん、永田さんの方でお話をいただきまして、167名と多くの方にご参加いただいております。第2回は、社会的処方ということで、堀田先生にご講演いただきまして、146名の参加となっております。4ページですが、多職種連携研修会ですね、8ページの後に、A3で各ブロックの研修会の概要を載せさせていただいております。各ブロックの世話人の皆様で研修のテーマを決めていただき、それぞれの地区で研修を実施しております。また、今年度も開催いたしますのでよろしくお願いいたします。続きまして5ページの入退院支援相談員交流会です。令和7年度から本格的に開始ということで、4回開催いたしました。特に第4回目は、ケアマネジャーや訪問看護師にもご参加いただいて、各病院のMSWの方々との意見交換を行いました。今年度につきましては、またご説明いたしますが、ホウカツや特養等との意見交換会を今企画しているところです。6ページですが、在宅療養講座ということで、1回目は、山下先生にご登壇いただきまして、大島さん羽田さんに事例の発表をしていただきました。2回目は、角先生ご講演をいただきまして、遠藤さん沼田さんに事例の発表をしていただきました。今年度も引き続き開催をしていきます。7ページですが、昨年度新規で行い、今年度第2号を発行していきます。5番のMCS操作研修ですが、昨年度につきましては集合型で開催いたしましたが、こちらもちょうど後ほどご説明いたしますけれども、今年度につきましては、出前講座、出張型で開催をしていくという予定になっております。私からの説明は以上となります。皆様から振り返りのご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター では、ただいまの令和7年度の振り返りと、令和8年度に実施してまいります事項について、各団体でご意見を、お伺いしたく存じます。先ほどと同様に5分程度、お時間を取りますので、お近くの方と、ご意見をまとめていただきたくと存じます。それではよろしくお願い致します。

(5分ペアワーク)

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター では先ほどと同様、名簿の順でお伺いさせていただきます。医師会様よろしいでしょうか。

○井上委員 医師会としては、在宅療養講座の件に関して少しご説明したいと思います。在宅療養総論の説明ということで、年2回この区民啓発講座を行っておりますが、テーマとしては、いつも総論という形で在宅療養の始め方や、どういう方が対象なのかというような総論でお話をしております。過去にも、山本先生、山下先生、角先生にもしていただきましたが、聴講する方が、もし積極的な区民の方で何回も聞いていただくと、似たような話になってしまうことが多いと、その方にとっては少し退屈な話になってしまうのではないかなというようにことを少し危惧しています。場所が同じですと似たような方がいらっやってしまうという懸念もあるので、場所をその都度変更して、花畑地区、鹿浜地区、江北エリアとか、その辺に絞って場所を移動していくと、その地域の先生にもお願いしやすくなるというようなこともあるのかなと思ったので、その辺りを検討していただければと思います。

○河井医療介護連携推進係長 今年度につきましては、1ヶ所ギャラクシティの方に變更させていただいていることと、すこやかプラザあだちは2年目ということで、もう1回こちらでやらせていただきたいのですが、また来年度以降の開催場所については検討していきたいと考えております。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして歯科医師会様お願いいたします。

○佐藤委員 歯科医師会の方では参加人数としては、微増ではありますが、内容的には、今までわずかな数人で、いくつかのブロックを兼任していたのですが、昨年度から5ブロックそれぞれに担当の先生を決めまして、そこの先生が参加するっていう流れにしているので、プラス4が歯科医師会の中ではだいぶ人数が増えているという実感であります。この後の項目でも話しますが、在宅介護の内容的に歯科医師会の中で進めているところもありますので、引き続き今報告があった会議にも参加して協力していきたいと思っております。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして薬剤師会様お願いします。

○浅見委員 薬剤師会は、参加人数が、令和6年度が99人で、7年度は55人とかなり減っています。多分この中で1番マイナスではないかなというところで、背景として、診療報酬が変わって、地域貢献というところの部分で、今までこういったものを活用していた方々がたくさんいたんじゃないかなと。今ハードルがかなり高くなってしまって、というところで諦めてしまい、こんなに減ってしまったのだろうと推測できます。しかし、多職種連携においては、報酬等々だけでなく、違うメリットというのもあると思っています。その地域で連携していくという意味ではとてもメリットがあるので、そういったところで参加している薬局もいるという状況だと推測しております。引き続き当会としては、是非とも盛り上げていきたいという風に思っています。また講演に関してですが、基調講演の時に、著名な柳沢先生にご講演いただいたので、やはりこういう時はすごく参加者も増えると思いますが、毎回そういう先生を呼べばいいのかという予算の関係もあるのでかなり厳しいと思います。ただ、睡眠というテーマなど、誰もが聞いてみようかなと思うようなテーマだと当然、参加人数は伸びるんだろうというところで、そういった比較的多くの方々の目に止めるような、行ってみたいと思えるような、テーマを続けていかないといけないという風に感じました。あと、Webと参加型の講演、ハイブリッドにしようと思うと、おそらくWebの方が増えてしまい、そうすると、すこやかプラザあだちの良さを知ってもらうという意味では、なんとか直接ここに来て参加してもらうような講演を続けていただきながらテーマを、皆さんに気に留めるようなものにしていければいいのかなという風に漠然と思っております。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。補足ですが、前年度との参加人数の減少というところで、こちらの認識としましてはスキルアップ研修で薬剤師会の皆様に、講演いただいた時の参加人数は非常に多く、盛り上げていただいております。その影響もございましたので、補足させていただきます。続きまして、介護サービス事業者連絡協議会の皆様お願いします。

○内山委員 私どもの方では、話の中心が多職種連携研修会のことについてで、今5ブロックでそれぞれ世話人たちも出席して、テーマ決めをし、地域課題をと

いうところで取り組んできているかと思うのですが、正直なところ、この地域だからこそという話題に本当になれているのかと言うと、例えば1つの課題、1つのテーマを決めて同じテーマを各ブロックで行う。そうすることで出てきた答えであったり、話し合った内容であったりということが、逆に地域課題として見えてきたりもするのかなと思います。というのも、やはり企画を立てて、講師を決めて、そのプログラムを組み立てていくという作業がなかなか負担な部分と言いますか、もう少し負担がなく皆がどんどん取り組めるような形を取ってみてもいいのではないかなというところで話が出ました。補足があればお願いします。

○鶴沢副会長 ケアマネジャーはこれまで更新要件というのがあり、研修を課せられていました。これが昨今の改正でなくなりつつあります。研修機会が多いことは良いことだけでも、今内山さんから言っていたように、その企画運営がなかなか負担であることは間違いない。そういったところにも配慮しながら、こういったことがやっていけたらいいなと思っているんです。その中で、地域包括支援センターの業務で今年度から、地域包括にも医療介護連携についての事業、その詳細は分かりませんが、それも増えたと聞いています。区の研修として多職種連携研修会に参加し、なおかつハウカツさんでも別で医療介護連携に関する何を何かしら取り組むみたいなのがあるのだとしたら、その辺もまた負担が増えることになるので、この辺もうまく連携を取っていく必要があるのかなという風に感じています。

○河井医療介護連携推進係長 ありがとうございます。今のハウカツの事業ですが、今年度から医療介護連携ネットワークということで、地域ケアネットワークというような事業の中でも以前からやられていた医療介護連携を1つの事業として頭出しをしたというような形になります。こちらの目的とすると、課の方で行わせていただいているのがブロックですとか、全体の研修、交流会であり、ハウカツはハウカツ圏域の中で繋がりを強めていきたいと思いますということで、なるべく皆様に負担感のない形をやっていきたいと思っています。また、多職種連携研修会ですが、例えば令和6年度は、能登の災害があったということで、3ブロック、4ブロックは、地震に対する多職種の連携ということでテーマを皆さんの方で自主的に選んでい

ただいております。今後またそういった何か1つのテーマを各ブロックで、突き詰めていくというの、やり方の1つとしてあると思いますので、今年度第2回の世話人会の中で、そういったことも少しお話をさせていただいて、また協議会に持ち帰って検討させていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、柔道整復師会様お願いいたします。

○和田委員 私個人の考えですが、多職種連携にいただいていたときに、多職種の方にも柔道整復師について理解されてなかった。だから、5ブロック全部の多職種研修の案内を出す時に、あなたはこのブロックのいついつですよという案内を出したのです。しかし、ほとんどの事業所が個人でやっており、19時20時までの受付が多い。大勢いるところは、他の者に任せて研修会へ行くことが可能ですが、実際出席が各ブロック1人2人とかで、人数見てもらうと分かるように17となっていますよね。だから出る人は限られてくる。仕事休んでまで行って何になると言われてしまうと僕らもどうしようもないんですが、会員の中でも温度差があり柔道整復師のPRのためにも参加してほしいと伝えても理解されない方が多い。会としても、会員の協力もしなければと思っています。もう少し協力したいと思うのですが、申し訳ありません。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありがとうございます。続きまして、POS ネットワーク様お願いします。

○大館委員 振り返りで、人数に関してはトータルでも1,000人弱ってとこで、すごいなというところがまず率直なところ。POS ネットに関しては、少し増えたので良かったなと思いますが、ただリハ職の人数を考えると全く少ないです。案内とかアウトリーチがうまくできてないという、POS ネットワーク我々の課題もありますので、これに関しては、引き続き取り組んでいき、特に訪看ステーションや施設、そういうところには、まだうまくセラピストの情報が届かないという形もありますので届けていきたいと思っています。もう1つは、新規の若手の入職とかありますので、この医療介護スキルアップ研修は、若手の職員でもハードルが低く参加できるかなということもありますので、

うまく対象を絞って伝えて、少しでも参加してもらえ
るような発信を引き続きしていきたいと思っています。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありが
とうございました。続きまして、多機能サービス連絡
会様お願いいたします。

○永田委員 私も多職種連携などの研修会、3ブロッ
ク兼務していきまして、いろんな研修に顔を出してい
るのですが、今年度確かに少しは増えているのです
が、やはりテーマによって増えたり減ったりと、こ
れは致し方ないとしても、出ている人が固定化され
ているというのは、皆さんおっしゃる通りです。そ
れは各団体で開催されている普段の会も恐らく同じ
で、出る人は出るけど、出ない人は出ないとなっ
てきている。そこを改善することはすごく難しいこ
とですが、例えばスキルアップ研修に関しては、す
こやかプラザあだちで開催しているので、Webと
現地開催のハイブリッド形式にするなど、多くの方
に見てもらえるような形にもできると思います。会
場に来る人が減る可能性がありますが、全体として
見る人が増えるという目的であればWebを併用す
ることも良いかと思います。私はこういう会とか研
修が、ここ数年とても好きになったのですが、やは
り色々な人に会うこと自体に意味がある、価値があ
ると思っています。正直、いろんな場でたくさん
の人に会うので、「どこにでもいるよね」といわ
れているのですが、それ自体、価値がある、財産に
なっているのでは出席しています。それが分から
ない方もいますが、やはり出席する価値があるとい
うことを理解いただかないと、参加者は根本的に
増えないと思います。色々な知識が増えることは
もとより、人間関係も広がることは意味のあるこ
となんだということを、伝えていけたらなと思いま
す。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありが
とうございます。最後に、社会福祉協議会様お願い
いたします

○結城委員 まず、2ページにある、医療介護連
携研修ですが、ハウカツが56名増えたということ
はとても嬉しく思います。ハウカツ側はこの医療
介護の研修、また医療介護の連携をととても重要
視しております。ただ、先ほど鶴沢さんからあつ
た通り、今後ハウカツ単位でやるとなると被るこ
ともあるので、お付き合いいただける医療介護従
事者の方々が負担に思わなけれ

ばいいかなと思っています。また、5ページにあ
る入退院支援相談員交流会ですが、今年度1回目
がハウカツをテーマにいただけるということで、
嬉しい限りでございます。本当にありがとうございました。
良い連携が取れればと思っています。最後の8
ページにあるMCS操作研修会ですが、興味はあ
るのですが、どの程度の内容があるのかということ
を具体的に示していただき、また参加者の感想
なども入っていると、より出席しやすくなる
と思います。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター ありが
とうございました。たくさんのご意見をいただき
まして、特に皆様の研修に対するご負担感です
とか、開催の時間等を色々検討して進めてま
いりたいと思います。では、このセクションにつ
きましては以上でございます。有野会長に進行
をお返しいたします。

○有野会長 続きまして、次第4、案件に移り
たいと思います。令和8年度入退院支援相談員
交流会の開催について、こちら事務局の方ご
説明をお願いいたします。

○高在宅療養支援コーディネーター 私の方
からは入退院支援相談員交流会について報告
させていただきます。お手元の資料3をご覧
ください。まず初めに令和7年度、交流会の
開催結果ですが、先ほど河井からもありまし
たので、内容に関しては資料をご参照いただ
ければと思います。第4回目がケアマネジャ
ーと訪問看護師との交流を開催し、大変好評
で、参加された方も何回かやってほしいとい
う意見がありました。令和7年度の参加人数の
累計は、89病院185名で、実際の病院の数
ですと、36の有床病院の相談員や入退院支
援看護師が参加した結果となりました。つい
て令和8年度入退院支援相談員交流会の予
定について報告いたします。令和7年度に続
き、病院の相談員だけではなく、地域の多職
種との連携をより深めるということで、地
域でつなぐ入退院支援をテーマにしており
ます。令和8年度も4回の実施を計画して
おり、第1回目が5月14日すこやかプラ
ザで、地域包括支援センターの業務内容の
理解とハウカツ職員との交流会を予定して
おります。今現在申し込み中ですが、かな
りの反響があり、ハウカツは20カ所、病
院は18病院の申し込みがあります。元々
50名ほどの予定で考えていましたが、現
在84名の申し込みがあり、最終的には
100名ほどになるかと思っています。2回
目、

3回目に関しても今少しずつ準備をしており、特養や老健などの施設、また虐待に関してなど、テーマを考えております。第4回目ですが、在宅療養に関わる多職種との意見交換会を予定しています。今日参加されている団体の方では是非ということがありましたら、お声かけいただければと思います。

○有野会長 ありがとうございます。ただいまのご説明に何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

(無し) では次の案件です。各団体、専門職の地域貢献の取り組みについて、こちらも事務局の方からご説明をお願いいたします。

○馬場在宅療養支援コーディネーター 資料4について説明します。資料4の1をご覧ください。こちらはアンケートに関するお願いになります。アンケートを実施する経緯ですが、各団体や専門職の方々が行っている様々な活動やイベントについて、他の職種が知らない現状があり、せっかく実施していることを他職種の団体にも知っていただき、より良い企画運営ができるのではないかとということで、まずは情報の集約をするというかたちになります。アンケート結果につきましては、第2回以降の在宅療養推進協議会で情報を提供しながら、各団体で協力できることなど検討できればと考えています。こちらですが、足立区のオンライン申請システムで入力ができるよう準備しておりますので、回答いただければと思います。準備が整いましたらご案内をさせていただきます。またすでに開催が決まっている講座やイベントがございましたら、資料4の2にご記入いただければと思います。講座やイベントにつきましては、医療と介護の連携・研修センターホームページに掲載し、周知していきたいと考えております。現在日付等決まっていないものについても、何月頃ということが分かりましたら、こちらに記載していただければ、こちらからご連絡させていただきますのでご記入ください。よろしくお願いいたします。

○有野会長 ありがとうございます。ただ今のご説明について何か、ご質問、ご意見ありますでしょうか。

(無し)

では、続きまして報告事項に移りたいと思います。7つ報告ありますが、事務局の方からご説明よろしくお願いいたします。

○安達医療介護連携推進係主査 資料5をご覧ください。

さい。私からは6月25日に開催いたします令和8年度第1回医療介護スキルアップ研修の開催について報告させていただきます。前回、7年度の第4回目の協議会で、地域課題についてハウカツから発表させていただきました。その中でも精神疾患を抱えた方への対応の仕方や保健所との連携といったところに課題を感じているというお話がありました。こちらを受けて、今年度第1回のスキルアップ研修は、テーマとして精神疾患を抱えた高齢者が安心して地域で暮らすためにといったテーマを設定させていただきました。有野会長に開会のご挨拶をいただきまして、第1部には東京足立病院の平野先生による講義、第2部に足立保健所保健師の田中精神保健係長に保健センターの役割についてご説明いただきます。講義の後は、シンポジウムを予定しておりまして、ファシリテーターに、足立区社会福祉協議会結城福祉部長、パネリストには第1部の講義に引き続き、平野先生とおうち訪問看護ステーション西新井看護師の富永さん、ケアプランニングセンターTokyo ケアマネジャーの阿部さんの3名にお願いしております。また最後講評におきましては、各団体で順番に行っていただいております。今回は永田さんをお願いします。皆様のご参加も、どうぞよろしくお願いいたします。

○高橋医療介護連携推進係員 私からは令和7年度すこやかプラザあだち大研修室の利用状況についてお知らせいたします。資料6をご覧ください。利用状況では、全期間を通して平日の利用は45.9%と、土日祝日と比べて比較的高くなっています。土日祝日は全体的に低いですが10月から12月はピンクリボン講演会や理学療法士の研修会などが利用があり利用率は高かったです。団体別所管別利用では、医療介護団体の利用が14.8%となっています。医療介護団体別に見ると足立区医師会の利用が33.1%と最も高く夜間を中心に学術講演会が多く行われています。介護団体の利用は資料の通りです。今後の方針として令和7年11月より医療介護団体会員のうち、個別の医療機関や介護事業者であっても、医療や介護に関する区民向けの講座、資質向上、連携強化に向けたと事業等で公益性が認められる場合は利用可能としました。多職種が集まる研修会や在宅療養コーディネーターのアウトリーチ、区ホームページ等により利用推奨をしていく予定です。

○鈴木在宅療養支援コーディネーター 続きまして令和7年度在宅療養用窓口の相談実績のご報告をします。資料7をご覧ください。令和7年度の相談件数は144件で、昨年度160件から減少しております。相談内容の件数に関しては、在宅療養に関すること、利用者の入院機関に関することが、上位に来ております。その中でも、輸血ができる医療機関や耳鼻科や眼科の往診が可能な医療機関の相談が多くなっています。また通院から訪問診療に切り替えたいという相談も多くあります。利用者の入院先医療機関に関することということでは、精神疾患や認知症の方の入院先の相談が多いです。次に17ページを見ていただいて、相談者別件数ですが、毎年ケアマネジャーが多いのですが、今年度はハウカツからの相談が同程度の件数となっております。こちらの相談窓口も、ハウカツとの信頼関係が軸になっておりますので、ハウカツとの関係づくりも継続していきたいと思っています。

○井上在宅療養支援コーディネーター 私からは、在宅療養リーフレットのご案内をさせていただきます。別添のオレンジ色のリーフレットをご覧ください。今回は在宅療養の費用の仕組みについて、前回より分かりやすくリニューアルをしております。今後こちらのリニューアルしたものを配布させていただく予定となっております。皆様にも配布のお願いをすることがあるかと思いますが、その際はご協力の方よろしく願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 続きまして、MCSの出張研修につきましてご説明いたします。こちらは前回の協議会でご説明した件になりますが、今年度は出張研修として開催してまいりたいと思っています。第1回目としては、POS ネットワークさんがすこやかプラザあだちでイベントをされておりましたので、そこに呼んでいただき、ご説明をしてまいりました。こちらのチラシに書いてあるように、対象としては、先ほど結城委員の方からご意見ございましたけれども、基本的には初級編というイメージで、これから登録される方、登録サポートですとか、登録していても使い方がよくわからないような方を主にやっております。形式として、病院や事業所単位でも構いませんし、5人から15人程度の少人数で、対応も可能としております。内容につきましては、こういった内容だったら集まるといったご意見もございま

したので、オーダーメイドの形式でも検討してまいりたいと思います。

○長澤介護人材確保・育成支援担当係長 私からは、令和8年度足立区介護職員の実施計画についてご説明をいたします。資料8をご覧ください。

本事業は現任介護職員の技能及び資質の向上目的として年間を通じた研修を実施するものです。研修内容につきましては、ご覧いただきますように接遇、認知症、感染症、医療知識、虐待防止など現場で求められるテーマを体系的に設定し、月ごとに実施しております。今年度の主な特徴といたしまして、4月及び6月に新たな取り組みを実施しております。4月の接遇研修では、従来の接遇マナーや対人援助技術に加え、外国人介護職員の受け入れを見据えた対応力の向上を目的とした内容を新たに取り入れました。また6月には外国人介護職員向けの研修として介護現場で必要となる日本語や記録方針についてより実践的な内容を実施いたします。これらは、介護人材不足が続く中、外国人材の受け入れと定着を支援する観点から新たに取り組むものでございます。その他の研修につきましても、いわゆるBCPの策定、意識医療知識ターミナルケアなど施設職員及び在宅療養を支える介護職員に必要な知識、技術の習得を目的として実施してまいります。また、より多くの方に研修機会を提供するため全ての研修について当日参加が難しい方を対象に後日動画配信を行います。申し込みはオンラインで受け付けております。加えて令和7年度に作成した介護実技動画についても申し込み者の方を対象に限定して配信し、実技面でのスキル習得を保管してまいります。ご参加や周知ご案内などご協力の方いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

○平野医療介護連携推進係員 私からは足立区介護職員資格取得支援事業についてご案内をさせていただきます。まず今年度の大きな変更点といたしまして、オンライン申請が可能となりました。資格取得支援事業のホームページから申請することができます。また、今まで通り、郵送と窓口での受付も行っております。次に、助成対象となる資格及び金額については、令和7年度と変更はございません。最後でございますが、令和8年度の対象期間としては、令和7年4月から令和9年の3月までに修了した研修が対象となっております。資格取得支援事業については以上となります。

○有野会長 以上7つの報告でしたが、まとめてなにかご意見等ありますでしょうか。

○佐藤委員 資料8の足立区介護職員研修事業ですが、昨年、足立区社会福祉協議会がやっている口腔ケアについて、歯科医師会から私が講師として研修しましたが、今年度は入っていないということでしょうか。

○長澤介護人材確保・育成支援担当係長 そうですね。令和8年はご覧いただきます研修になっておりますので、入っていないです。

○佐藤委員 そういうことでしたら、例年入っているの、あればそのように用意しますし、入っていないのであれば、その旨をあらかじめ連絡いただきたいことと、理由も合わせてしていただかないとこちらの方も対応しきれない部分があります。

○長澤介護人材確保・育成支援担当係長 はい。ありがとうございます。

○佐藤委員 あと、介護職員の方の口腔ケアの研修を昨年も行いましたが、やはり基本的なことも分からなくて、ためになったという話もありますし、区民の方のためにも最低限知っていただきたいところをお話はしたので、歯科医師会としてというか、私としては必要なテーマだと思っていますので、そこは検討していただきたいと思います。

○長澤介護人材確保・育成支援担当係長 はい、ありがとうございます。

○有野会長 他にございませんか。ちなみに、今出ている会場の場所は決まっているのでしょうか。

○結城委員 介護職員研修は区の方から委託を受けてやっております。まず年間12回というようなオーダーをいただき、内容については、事業所方が、法令で行うような研修を入れたりですとか、またトピックスを入れたりということをしています。口腔ケアの研修について、今年度入っていないということで、歯科医師会様には説明がなく本当に大変申し訳ありませんでした。毎年テーマを変えながら、区と一緒に考えているといった形になっておりますので、改めて佐藤先生には連絡させていただきたいと思います。

○有野会長 ありがとうございます。他に何かご意見、ご質問ありますか。(無し)

では、報告事項についてはこれで終了したいと思います。では次第6番、各団体からの情報共有について何かご意見がありますでしょうか。

○大館委員 先日、すこやかプラザあだちで研修を行わせていただきました。当日は60名ほど集まり、福祉用具事業所さんにもご協力いただき、色々と展示していただいて、そちらのスタッフの方々も合わせると100名弱ぐらいがここの会場に集まりました。参加者は大きな法人のスタッフが結構多かったのですが、一方で訪問看護ステーションや、老健の職員さんもちらはらと来ていただいて、POSネットワークの説明もできました。こういった形で何度か年間の研修を行っていただけたらと考えております。その際、皆さまにも内容の周知にご協力いただけますと幸いですので、どうぞよろしくお願いいたします。

○有野会長 はい。ご報告ありがとうございます。他にありますか。

○佐藤委員 足立区歯科医師会で、先ほども少しお話ししましたが、在宅介護委員会の方で、色々事業を進めております。現在、内視鏡検査の方を、東京科学大学の摂食嚥下リハビリテーション学分野と連携をしております。嚥下で困っていて、内視鏡検査が必要だということがありましたら、足立区歯科医師会の事務局の方に、検査を申し込んでいただければ、連携という形なので、繋ぐというところで、必要であれば先生に検査をしていただくという手続きが取れるようになります。その際、かかりつけの歯科医院がある場合ない場合、またその先生が歯科医師会の会員でなくても、それは問いませんので、何かありましたらご相談いただければと思います。事例として、私のクリニックでも、以前、ケアマネさんから、嚥下内視鏡検査をやっていますかという問い合わせがあったので、現場でそういうような悩みがあると思います。実際に内視鏡検査が必要かどうかというところもありますが、一応そういう体制を取っていますので、何かあれば相談いただければと思います。また、歯科医師会では、先ほども言ったように、なるべく参加できる人数を増やしておりまして、今回ははつらつ教室の口腔講座を歯科医師会の方で担当することになりました。合計32回ありますが、多くの先生にご協力いただくことができています。まだ検討段階ですが、足立区歯科医師会の方で、非常勤の歯科医師を採用し、訪問診療も行いたいという計画も進んでおりますので、ある程度具体的に決まったら皆様に共有したいと思いますので、よろしくお願いします。

○有野会長 はい。ありがとうございます。他にありませんか。

○浅見委員 先月、すこやかプラザあだちで当会の研修を開催させていただきました。内容としては、無菌室共同利用に向けた無菌実技研修会です。実際に実習という形でしたが、実習となると、シリンジなど様々な備品関係があり、意外とスペースを使いますので、すこやかプラザあだちを活用できて良かったと思っています。当日は、20人の参加者、また委員が10人ほどで講師をして、手取り足取りしながら、研修を行いました。この目的としては、皆様もご存知と思いますが、昨今介護医療が様々多様化してきており、薬局も、注射薬や点滴関係も扱う機会が非常に多くなってきました。薬局内で混雑して、患者さんのご自宅にお届けするような無菌製剤というのが一部ございまして、それに対する対応をしなければならないと思い、このような実技研修を行った次第です。それには、無菌の実技スキルも当然必要になってきますが、本々無菌製剤というのは、その薬局内に無菌室ないし、クリーンベンチの中で無菌操作を行い、注射薬を調整します。無菌室については、無菌室のある薬局に事前登録して、借りるという共同利用という制度がありまして、これを、当会としても活用させていただくというかたちをとっています。当会は、残念ながら会営薬局の方にはそのような施設がありませんので、当会の会員の中で、無菌室がありよく活用している場所に、委託事業という形でお願いをしております。20人の参加者が、多いのか少ないのかというところでございますが、その共同利用前の状況で、170ちょっとある会員薬局数の中で、実際に無菌ができる薬局が、5、6ヶ所ぐらいという状況です。おそらく探すのがかなり難しいのではないかとこのころです。知っている方はそういうところに集中してしまうというところで、ある程度地域を分散した形で、と考えております。もし、そのような地域住民の方がいた場合に、対応できる薬局がどこにあるのだろうかという話になった時には、当会の事務局ないし、私に直接でもいいので、ご連絡いただければ、然るべきところを紹介させていただきます。当然経験のない薬剤師もたくさんおりますが、無菌操作はできる状況であるということと、知識や実技等の部分は私含めた担当委員が後方サポートさせていただきますので、薬剤師が原因で、その方に麻薬

の点滴が使えないとか、そういうことをなくしたいという思いで動いております。もしそういうことがありましたらご連絡いただければご紹介させていただきますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

○有野会長 ありがとうございます。佐藤委員どうぞ。

○佐藤委員 先週の土曜日に足立区歯科医師会で、今回の令和8年度の診療報酬改定の研修会を行いました。その時にすこやかプラザあだちの研修室使わせてもらいました。ハイブリッドでの開催でしたが、歯科医師会の中で研修会を行う際にはどうしても通信の問題が生じたりして結構大変だったのですが、すこやかプラザあだちで開催した際は、本当にスムーズで、通信に関しては、ほぼ問題なくできたところがあります。感謝しております。ハイブリッドの研修で、やはり自前でやるのはなかなか大変ですので、是非他の団体の方も利用されるといいのかなと思い報告です。

○有野会長 はい、ありがとうございます。他によろしいですか。井上委員どうぞ。

○井上委員 医師会では在宅医療塾と言いまして、年に4回程度、在宅訪問診療の裾野を広げようという講座活動をしております。基本的には医師会内の講座なので、医療関係者の方が聴講者になるのですが、山下先生に年4回お願いしておりまして、訪問診療の始め方や、訪問診療で実際のどういったトラブルがあるのかなど、かなり踏み込んだ話までしています。ただ、聴講者の方がなかなか伸びていかないという現状がありまして、是非皆さんそういったチラシを見た際には、周りの方を誘って参加していただければと思います。

○有野会長 ありがとうございます。医師会ですこやかプラザあだちを活用させていただいていますので、先ほど佐藤委員の方からもありましたけど、通信環境がよろしいので、非常に役に立っています。他になれば各団体からの情報共有はこれで終了したいと思います。

続きまして、最後になりますけども、第2回の足立区在宅療養推進協議会の開催ということで、場所はこちらすこやかプラザあだちになります。開催日ですが、前回から多数決ということになっていますので、7月13日の月曜日、27日の月曜日ということで、皆さんご都合を見ていただいて決めたいと思います。全員が手を挙げると分からなくなってしまいますので、1

3日がダメだという方いらっしゃいますか。

(挙手無し)

27日が難しいという方いらっしゃいますか。

(挙手無し)

では、どちらでもいいということになりますけども、
なにかご意見ありますか。

○内山委員 月半ばの方が嬉しいです。

○有野会長 分かりました。どちらも問題ないということなので、今のご意見いただいて13日の月曜日に第2回ということにさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。内容については次第に医療介護スキルアップ研修の振り返り及び第2回のテーマ、在宅療養普及啓発各種団体の課題共有などについて協議したいと思います。では第2回は、7月13日の月曜日の7時ということになります。よろしくお願いいたします。
では以降事務局の方で進行をお願いいたします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 有野会長、ありがとうございました。それでは次第の8事務連絡に参ります。

○馬場在宅療養支援コーディネーター 昨年度から出席された委員の皆様に、謝礼の方を支払させていただいていますが、住所、振り込み口座に変更がある場合につきましては、事務局までご一報いただくようお願いいたします。今後につきましても住所と口座番号など変更の際は、その都度事務局の方までご連絡ください。よろしくお願いします。

○渡邊在宅療養支援統括コーディネーター 以上で本日の会議は終了となります。長時間に渡り様々なご意見、ご質問いただきまして誠にありがとうございました。これにて令和8年度第1回足立区在宅療養推進協議会を終了とさせていただきます。お忘れ物のないようにお帰りください。本日はありがとうございました。